

都 市 ～ 82
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

駒ヶ根市長 杉本 幸治



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号にて依頼の標記については、別紙のと
おり提出します。

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

長野県駒ヶ根市

- ・ 地方部は都市部に比べて道路整備が遅れているが、公共交通機関のネットワークが十分でないため、車に頼らなくてはならない状況にある。ライフスタイルの多様化により、地域住民の生活圏域が広域化しており、地方部ではその移動手段は車が主流になっている。地方部での医師不足が社会問題となっている中、救急車も他地域の救急病院へ搬送する事例が増大している。以上のような状況からも、市町村間を結ぶ国県道は引き続き整備を進める必要がある。
- ・ 道路整備に当っては国幹道から市町村道に至るネットワークとしての整備が重要である。主要幹線道路（国道 153 号等）の整備・管理や、通行不能の国道区間の解消（国道 152 号地蔵峠）など最低限の道路整備は国において実施すべきである。なお、地域間ネットワークを補完する県道・主要地方道は県が、さらにまちづくりに必要な細部の道路（市町村道等）は市町村が整備・管理することが原則である。特に一般国道 153 号伊南バイパスにおいては、国の直轄事業にて駒ヶ根以北に延伸し、整備を推進していただきたい。
- ・ 市町村内の道路も広域的な道路と同様に整備が遅れているが、交通量が多い道路は道路構造令の幅員に適合している 2 車線以上の道路、交通量の少ない道路は道路構造令の幅員にこだわらない 1.5 車線道路など、地域の実情にあった必要な道路整備を容易に選択して整備していくことが必要である。
- ・ 地方都市は道路を維持・管理していくにあたり、十分な予算確保が困難なため、手がつけられないのが現状である。市内の幹線道路については、凹凸の少ない快適な走行を目指しているが修繕もできないので、国においては、道路整備の十分な予算確保するとともに道路修繕にも採択が容易な補助制度を創設してほしい。
- ・ 危険な踏切を解消したいが、道路管理者と鉄道事業者の話がつかずに事業が進展していない。改修するにあたり鉄道事業者は踏切閉鎖を条件にするが、日常生活で使っている踏切を閉鎖することは容易にできないのが現実である。鉄道事業者の条件緩和とともに、事業に係る補助率を上げるなどが必要である。踏切事故をなくすため、末端行政では解決困難なため、国土交通本省内関係部局での更なる調整を行い、鉄道事業者に対して、適切な指導・助言を強く望む。

今後の道路行政についての意見・提案

様 式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

長野県駒ヶ根市

○現状

・当駒ヶ根市は、中央アルプス・南アルプスに囲まれ、恵まれた自然と天竜川に沿って両側に広がる広大な平地を生かした個性あるまちづくりを進めている。

しかしながら、交通網の現状は天竜川の西側（竜西地区）は南北に鉄道、高速道路、国道、主要地方道、広域農道などが整備されているのに対し、天竜川の東側（竜東地区）の南北方向に唯一の主要地方道が幅員狭小の隘路、隣接する国道 152 号は通行不能といった状態であり、整備の違いにより、西側と東側では人口増加と人口の減少、企業立地と集落の存続の危機といった両極端な差が生じており、行政の懸案となっている。

・交付金等の要望額にシーリングがかかり、市の計画通りの整備進捗ができない。

・道路維持に対しての助成制度がないため、自主財源となり維持修繕が進まない。

・生活道路の改良等がまだまだ数多い中、着手できない状況にある。

○課題

→まちづくりのために必要な道路ネットワークの整備が重要である。

→必要額の確保を望む。

→普通地方交付税だけではまかないきれない。新たな助成制度を望む。

→交付金等で小規模な改良も制度化してほしい。地方の道路整備の目線にたった制度にする。全国画一した助成制度は地方都市にはなじまない。

②－２ 地域の目指すべき将来像

長野県駒ヶ根市

- ・ 少子高齢社会に対応したバリアフリーに適した道路整備。
- ・ 景観に配慮した道路整備。
- ・ 広域連携軸（国道１５３号伊南バイパス、市道新春日街道線、主要地方道伊那生田飯田線、主要地方道駒ヶ根長谷線、一般県道栗林宮田停車場線、一般県道車屋大久保線、一般県道西伊那線）の整備促進
- ・ 地域間連携軸（主要地方道駒ヶ根駒ヶ岳公園線、都市計画道路上穂飯坂線、都市計画道路中割経塚線、市道古田切線）の整備促進
→ 市道新春日街道線～国道１５３号～国道１５３号伊南バイパス～主要地方道伊那生田飯田線を結ぶ道路の整備。竜西地区と竜東地区を結ぶ軸を構築させる。
- ・ 国際協力機構青年海外協力隊駒ヶ根訓練所（日本では駒ヶ根市と二本松市のみ）を中心とした、国際都市『駒ヶ根』を目指し、国際交流を促進している。ここには全国各地から毎年 800 名の訓練生が集まり、77 日間の入隊訓練を受け世界中の発展途上国に人的技術支援を目的に派遣されていく。また、海外から相互派遣研修も行われており、国際交流活動を行っている。訪れる外国人も多いことから、道路標識、公共施設の案内表示に外国語併記を行うなど交通環境の整備を行いたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

長野県駒ヶ根市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
①地域経済・文化の活性化	1. 三遠南信自動車道と国道153号バイパス更には国道152号地蔵峠の通行不能区間解消による広域交通ネットワークの拡充 2. 主要地方道駒ヶ根長谷線の改良	1. 三遠南信圏域に上伊那地域が加わることにより、人材、物流、企業立地が進み、地域経済の振興や文化交流が促進される。 2. 産・官・学連携の地域振興が図られる。	
②安心安全の生活道路整備	1. 歩車道分離、歩道の段差解消 2. 交差点改良 3. 交差点及び歩道等への照明灯設置 4. 橋梁等の長寿命化	1. 歩行者・障害者にやさしいまちづくり。 2. 交通事故発生の防止。 3. 犯罪防止。	
③まちづくりの推進・都市計画道路の整備	1. 国道153号伊南バイパス（駒ヶ根工区）供用開始により新たな商業集積、情報、物流産業などの振興や戸建て住宅、アパート、マンションの建設が進み新たな新市街地整備が図られている。 2. 都市計画道路の整備と鉄道立体交差、踏切改良の促進	1. 伊南バイパスの全線供用開始により更なる整備が図られる。 2. 幹線道路の整備により交通分散が図られ、交通事故発生防止につながる。	
④国際交流促進	1. 青年海外協力隊駒ヶ根訓練所を核とした交通環境の整備	1. 国際交流に対する市民意識の向上。	
⑤協働のまちづくり	1. アダプト制度の充実 2. 景観協定	1. 市民参加による住民意識の向上。 2. 美しい景観のまちづくり。	